

グラフィックと親和性の高いフルIPスイッチャーKAIROSで、XRを使ったクオリティの高い映像コンテンツ制作を実現。



株式会社ヌーベルバーグ様

導入時期：2022年3月
導入地域：関東

課題

新スタジオ開設にあたり、フルIPに対応した先進的なバーチャルスタジオを構築したい

解決策

バーチャルスタジオの利点を最大限に生かせるフルIPに対応し、ソフトウェア・デファインドスイッチャーとして自由なレイヤー構成と高い信頼性を持つKAIROSの導入により、クオリティの高い作品づくりを実現

使いやすさはもちろん、新たな目標に向けた将来性もあり、未来を感じるスイッチャーだと思えます。

株式会社ヌーベルバーグ
代表取締役副社長
池田 正義 様

※所属は納入時のものです。

背景

XR × IPにより、かつてない次世代型スタジオが誕生

テレビ局やライブイベントなど、様々な制作現場への技術提供を行っている株式会社ヌーベルバーグ様は、2022年3月に自社スタジオ「n00b.st(スタジオヌーブ)」を新設しました。同スタジオでは、インカメラVFXや大型LEDビジョンとグラフィックの合成により、空間スケールを拡大した多彩な映像表現が可能です。また、全ての機材がネットワークでつながったフルIPの制作環境を構築しています。その未来の番組制作の幕開けを思わせる次世代型スタジオに、IT/IPプラットフォーム KAIROSが導入されました。

導入した理由

多重合成に優れ、信頼性の高いレイヤー型スイッチャー

以前からIPスイッチャーには慣れ親しんでいたヌーベルバーグ様ですが、運用する中で様々な課題を抱えていました。代表取締役副社長の池田正義様は、「従来のIPスイッチャーはレイヤー数に限りがあり、足りない時は2段、3段を積んで運用していました。また、番組中にフリーズするなど安定性の面でも課題がありました。KAIROSなら、50レイヤー以上を必要とする番組制作を1台のみで実現し、途中でフリーズすることのない安定した運用が可能です。ハードウェアタイプも含め様々なスイッチャーと比較しましたが、我々の理想にぴったりとマッチしていたため採用を決定しました」と語ります。

映像制作のプロフェッショナル集団

1986年に映像技術会社として誕生した株式会社ヌーベルバーグ様は、テレビ局などへの人材派遣や機材提供を行い、長きにわたり日本の映像制作を牽引してきました。今回新設した「n00b.st(スタジオヌーブ)」は、XR撮影が可能なSTUDIO-1とクロマキー撮影が可能なSTUDIO-2の2つのスタジオから成り、技術スタッフが撮影から配信までサポートするレンタルスタジオとして運営しています。

- 「n00b.st」所在地 東京都渋谷区宇田川町34-5 サイタービルIII 3F
- 「n00b.st」URL <https://www.noob-st.com/>



IT/IP プラットフォーム“KAIROS”



▲ インカメラVFXが可能なXRスタジオの様子。高精細な大型LEDビジョンに映し出されたCGや映像と、出演者がリアルタイムに合成され、バーチャルとリアルな自然な融合を実現している



▲ KAIROSが設置されたサブルーム。2面のマルチビューはレイアウトを自由に変更することが可能



▲ 「Kairos Creator」はレイヤーごとに素材が色分けされて分かりやすいと好評



▲ KAIROSのメインフレーム。2Uの小型サイズでラック室の省スペース化に貢献した

導入後の効果

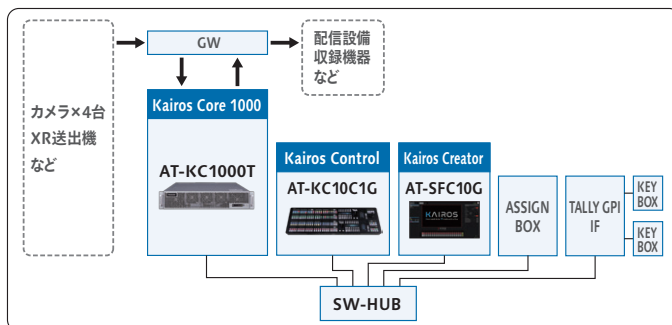
eスポーツなど高度な演出が求められる番組制作に貢献

スタジオナブでは、バラエティ番組や教育番組、企業イベントの配信など、様々な映像制作を行っており、特にKAIROSはeスポーツのライブ配信に適していると言えます。池田様は「多重合成が必要なeスポーツはKAIROSの能力が最大限に発揮される場だと思えます。eスポーツは約100名のプレイヤーとオンラインでつないで実施することもあり、さらにプレイヤー情報や戦況など様々な情報が一気に表示されるため50~60レイヤーは必要になります。KAIROSなら、これだけのレイヤー数を1台で処理でき、複雑な画面構成にも柔軟に対応できます。また、安定した運用が可能のため、6~7時間という長時間の生配信でも安心できることが何よりありがたいですね」と語ります。

簡単オペレーションで円滑なライブ配信を実現

KAIROSはGUIソフトウェア「Kairos Creator」を使って、まるでPowerPointのようにPCから簡単に画像合成や各レイヤーのトランジション設定などを行うことができます。実際に数々の番組制作を行っている制作技術 TD部 メディア課の村山聖様は語ります。「Kairos Creatorで事前に合成の仮組みができるため、本番で慌てることのない円滑なライブプロダクションが可能になりました。また、以前はVTR出しやテロップ出しなど一連の作業全てを1名で行っていましたが、Kairos Creatorがあればスイッチャーとは別進行での作業が可能のため、分業ができるようになりました」

システム構成図



今後の展望

バーチャルプロダクション × リモートプロダクションで、様々なお客様のニーズを叶えていきたい

多彩なレイヤー合成を1台で叶えるKAIROSと、美術セットが不要なXRスタジオの組み合わせにより、お客様に高品質な制作環境を低コストで提供できるようになりました。さらに今後はKAIROSを使ったリモートプロダクションに力を入れて行きたいと考えています。たとえば、昨年の夏に大規模な音楽フェスの配信を担当したのですが、オペレーターを派遣し全機材を現地に持ち込み、電源の心配もあるような屋外環境の中で配信していました。今回リモートプロダクションに適したKAIROSを導入しましたので、今後は現地からスタジオナブにIPで伝送し遠隔でスイッチングすることで、安定した配信とコストメリットの共存という、お客様に大きなベネフィットをもたらすことができるのではと考えています。また現在は、グラフィックと照明を連動させた、よりリアルなバーチャル環境づくりに挑戦しており、将来的にはKAIROSからのスイッチングも連動させて、より一層利便性を向上させようと考えています。これからも様々な技術を取り入れ、お客様の映像制作に貢献できるスタジオをつくっていきたく思います。(池田 正義 様)



株式会社ヌーベルバーク
代表取締役副社長
池田 正義 様



株式会社ヌーベルバーク
制作技術 TD部 メディア課
村山 聖 様
※所属は納入時のものです。

納入機器



メインフレーム Kairos Core 1000
AT-KC1000T ×1台



コントロールパネル Kairos Control
AT-KC10C1G ×1台



Kairos Creator
AT-SFC10G ×1台

